

**CASBEEさいたま2016年版**  
**埼玉県浦和競馬場 新2号スタンド**

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15			<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40			
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40			
1 開口部遮音性能						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>		
2 界壁遮音性能						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>		
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>		
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.5</b>	0.35			<b>3.5</b>
2.1 室温制御						<b>3.3</b>	0.50			
1 室温		夏期26℃、冬期22℃を実現する空調機器を有している				4.0	0.38	<b>3.0</b>		
2 外皮性能						3.0	0.25	<b>3.0</b>		
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38			
2.2 湿度制御		加湿・除湿が可能な外調機により換気を行っている				<b>5.0</b>	0.20	<b>3.0</b>		
2.3 空調方式						3.0	0.30	<b>3.0</b>		
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.0</b>	0.25			<b>3.0</b>
3.1 昼光利用						<b>3.0</b>	0.30			
1 昼光率						3.0	0.60	<b>3.0</b>		
2 方位別開口							-	<b>3.0</b>		
3 昼光利用設備						3.0	0.40	<b>3.0</b>		
3.2 グレア対策							-			
1 昼光制御						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>		
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>		
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>		
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.8</b>	0.25			<b>3.8</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質		建築材料にはすべてJIS・JAS規格のF☆☆☆☆の材料を使用している				4.0	1.00	<b>3.0</b>		
4.2 換気						<b>3.3</b>	0.30			
1 換気量						3.0	0.33	<b>3.0</b>		
2 自然換気性能						3.0	0.33	<b>3.0</b>		
3 取り入れ外気への配慮		外調機の空気取入口を屋上に設置し、排気ファンとは距離を離している				4.0	0.33	<b>3.0</b>		
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50			
2 喫煙の制御		喫煙室を設け、排気ファンによる負圧、集塵機の導入を行っている				5.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.6</b>	0.40			<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40			
1 広さ・収納性						3.0	-	<b>3.0</b>		
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	<b>3.0</b>		
3 バリアフリー計画						3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性						<b>4.0</b>	0.30			
1 広さ感・景観						3.0	-	<b>3.0</b>		
2 リフレッシュスペース						3.0	-			
3 内装計画		客席のグレードに応じた内装計画、間接照明、内観CG検討等				4.0	1.00			
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		内装・外装仕上げ材における防汚性への配慮				4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		十分な清掃用具室や点検口を設け、維持管理のしやすい計画として				4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.7</b>	0.30			<b>3.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.8</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数1.25を満足する計画としている				4.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		1階コンコース部分にスチールパネルを採用				4.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房排気ダクトにステンレスダクトを採用				4.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		ドレン管に結露防止層付VP管、排水管に耐火二層管を採用				4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						<b>4.0</b>	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		節水器具の採用、雨水利用、受水槽への蛇口設置を行っている				5.0	0.20			
3 電気設備						4.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAとしている				4.0	0.20			
5 通信・情報設備						4.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	-	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		コアを片側に集約し、自由度の高い平面計画としている	4.0	1.00	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		キュービクル、空調熱源のための予備スペースを確保している	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		既存建物との調和に配慮した配棟計画、豊かな植栽配置	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		ピロティや自由度の高いフリースペースの計画、視認性の高い外構	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		主動線におけるアーケードの配置、豊かな植栽配置	4.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		[BP][BPI] <sub>m</sub> =0.62	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		自然採光、重力換気	<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BE][BE] <sub>m</sub> = 0.87	<b>2.6</b>	0.50	-	-	<b>2.6</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
1.1 節水		節水型便器の採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.7</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		雨水をトイレ排水に利用	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		排水・通気用硬質ポリ塩化ビニル管	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と内装材、内装材と設備が容易に分離可能な計画としている	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤、シーリング材に有害物質を含まない材料を使用	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		十分な利用者用駐車場、荷捌き駐車場の計画	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		外へ漏れる光への配慮	5.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		反射光に配慮した外装材の選定	4.0	0.30	-	-	